

## 「鉱工業指数」

経済調査部 島田 武典

### 鉱工業指数とは

鉱工業指数は、鉱工業製品を生産する国内の事業所における生産活動（生産・出荷・在庫）の推移を捉えることを目的として、生産活動の数量を基準年（2000年）＝100として指数化したものである。生産・出荷・在庫指数のほか在庫の比率を指数化した在庫率指数などが公表される。具体的には、各業種や財ごとに代表性があると考えられる品目（生産指数の場合は521品目）を対象とし、その生産数量（一部品目については金額）を各々の付加価値額を基準としたウェイトで加重平均することで算出する。なお、各品目を統合するためのウェイトは、工業統計調査等により算出された基準時点の固定ウェイトが用いられる（ラスパイレス方式）。なお、生産指数には付加価値額ウェイトのほか、生産額ウェイトによるものが存在するが、後者は鉱工業指数年報のみで公表される。

### 景気動向を鮮明に示す

生産指数は経済指標の中でも最も注目されるものの一つである。これは、同指数が景気動向指数の一致指数に採用されていることから明らかのように、生産活動の状況が足元の景況感を形成する大きな要因となっていることが挙げられる。ここで、鉱工業が日本の実質G

DPに占めるウェイトは、長期的な低下トレンドを辿っており、2004年時点ではおよそ24%（実質ベース）にとどまっている。しかし、鉱工業は海外需要の影響を強く受けることもあり、サービス業など第三次産業よりも景気に敏感に反応し、振幅も大きいという性質をもつ。このため、前述したウェイトの低下にも関わらず同指数が景況感を鮮明に示す指標となる。

### 今後は生産活動の勢いはやや鈍化か

直近8月の生産は前年同月比+6.0%と、高い伸びが続いている。しかし、生産活動に大きな影響を及ぼす海外需要は、米国や中国の引き締め政策などを受け、その拡大ペースを鈍化させると見込まれる。また、けん引役のひとつであったIT関連財については、出荷・在庫バランス（出荷前年比－在庫前年比、同指数のマイナスは出荷の伸び以上に在庫が伸びている状況を示すことから、在庫調整圧力の高まりと解釈できる）がマイナスに転じるなど在庫調整圧力が強まっているため、同分野の生産は鈍化してくる可能性がある。一方、非IT財の生産が引き続き好調で、在庫調整圧力もみられないことから、全体として深刻な生産調整局面に陥るリスクは小さいが、生産拡大の勢いは今後やや低下する可能性が大きいことを示唆している。

